

平成 29 年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

平成 30 年 4 月 9 日現在

研究課題名	1850-60 年代ロシア帝国のアジア外交—N.P. イグナチエフの活動を中心に—	
申請者	氏名	所属機関・職
	塩谷哲史	筑波大学人文社会系・助教

研究成果の概要

本研究は、N.P. イグナチエフ（生没 1832-1908 年）の外交活動に注目しながら、ニコライ 1 世期（在位 1825-1855 年）からアレクサンドル 1 世（在位 1855-1881 年）の治世初期にかけてのロシア帝国中央政府における対中央アジア政策決定過程、ならびにその政策決定と清朝、オスマン帝国、イラン、さらにアジアにおけるイギリスに対する外交政策決定との相互連関について明らかにすることであった

本年度は、センターに 2 度の滞在の機会を得て、『軍事論集 *voennyi sbornik*』『海事集録 *morskoi sbornik*』などに所収されている関連文書の網羅的な収集作業を行うとともに、在イスタンブル大使館勤務時代のイグナチエフの活動に関する刊行された文書集や二次文献の収集を行った。現在、これらの史資料を、これまで自身が収集してきたロシア帝国外交文書館（モスクワ）、ロシア国立海軍文書館（サンクトペテルブルグ）の諸文書と対照させながら、本研究課題をまとめる作業を継続している。その結果、清朝との伊犁通商条約締結交渉の全権を務め、アレクサンドル 1 世の即位後にはアジア局長を務めた E.P. コヴァレフスキーとイグナチエフとの関係や、対清朝の外交政策と、中央アジアに対する政策との連関が明らかになってきた。

本研究の成果として、*Modern Asian Studies* 等に論文を投稿中である。また、本研究課題への取り組みの継続を図るため、民間財団による研究プロジェクトへの支援申請を検討している。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。
なし（投稿中のみ）

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

「ニコライ 1 世期ロシア帝国のアジア外交」（三菱財団人文科学研究助成）

「ニコライ 1 世期ロシア帝国のアジア外交—外務省アジア局および地方総督の役割を中心に—」（村田学術振興財団人文・社会科学研究助成）

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。